

2018年7月1日

福音書からのメッセージ

イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい」と会堂長に言われた。(マルコによる福音書5章36節)

大勢の群衆に囲まれたイエス様の元に、会堂長のヤイロがやってきました。会堂長とは今でいう教会や礼拝堂の管理を任されていた人です。一般的に会堂長は裕福で、社会的にも影響力を持っていたそうです。簡単にいうと、とても偉い人でした。逆にイエス様は、群衆に人気はありましたが、立派な肩書や地位、名誉があるわけではありませんでした。

しかし会堂長ヤイロは、イエス様に必死にお願いします。普通ヤイロほどの人であれば、召使をイエス様の元に遣わし、自分の家に来てほしいと頼むでしょう。謝礼をちらつかせながら、「さあ、おいでください」と頼むのが普通です。しかしヤイロはそうしませんでした。直接イエス様の元に行ったのです。

ヤイロはイエス様の足もとにひれ伏しました。そしてしきりに願います。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください」と。なりふり構わず、彼は願います。人目なんて気にせず、とにかく娘を助けてほしい、その一心での行動です。わたしたちの祈りも、このヤイロのおこないに通じるところはないでしょうか。

先日、北大阪を大きな襲いました。教会のある伏見でも、震度 5 弱を観測しました。そのときわたしは地域の小学生 10 数人を連れて、学校に向かっていました。いわゆる登校班の見守りです。その途中で地震にあったのですが、そのときの祈りはまさに、なりふり構わずのものでした。「イエス様、どうか助けてください。この子たちをとにかく守ってください」。



ヤイロの娘は、すぐに癒されたのでしょうか。そうではありませんでした。イエス様はヤイロの家に向かいますが、その前に一人の女性が現れます。彼女はイエス様によって癒されますが、そこでのやり取りの間にヤイロの娘がなくなったという知らせが入るのです。ヤイロはこのとき、どんな気持ちだったのでしょうか。今すぐ何とかして欲しい、その願いは聞かれなかったように思います。

わたしたちの祈りも同じなのかもしれません。イエス様は聞いてくださる、そう思っても、なかなか現実にはならない。「あなたの家に一緒に行こう」、そう言ったはずのイエス様が、なかなか前に進んでくれないのです。わたしたちの信仰は、ここで試されています。自分の思い通りにならない現実。祈りは本当に聞かれるのか。わたしたちは不安に思い、そして恐れます。

そのわたしたちにイエス様は、こう応えられるのです。「恐れることはない。ただ信じなさい」。たとえすぐに自分の思い通りにならなかったとしても、その言葉を胸に歩いていきましょう。イエス様は共におられます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>